

JICA 中国事務所ニュース

(2007年7月号)

1. 最近のトピック

(1) ボランティア総会開催！

7月2日(月)～7月3日(火)にボランティア総会が開催されました。

ボランティア総会は年に2回行なわれ、普段、中国各地で活躍するボランティアが一堂に集まります。久しぶりに同期に会え、久しぶりに日本食を食べられ、任地では売っていないものを買える機会、皆さん、このときを楽しみに上京してきます。

ボランティア総会と一口に言っても、健康診断、藤本次長講話、自治会主催の異職種交流会、職種毎の分科会、個人面談、自治会主催の懇親会と盛り沢山の内容でした。

藤本次長講話では『異文化折衝術』ということで、これまでの経験を元に交渉時に重要な10のポイントについて話されました。皆さん、幾度となく配属先と交渉し、苦労されたかと思いますが、これで次回はずいぶん勝ってください！

また、異職種交流会では、広い中国ではなかなか話す機会も限られた異職種の方とじっくりと活動の状況や苦労話について語り合うことができ、これからの活動の参考になったと思います。



内蒙古隊員による「敬酒」

また、なんと言っても、ボランティア総会の醍醐味は懇親会(?)。どこで覚えたのか、どこで練習したかわかりませんが、どの出し物も立派なものばかり。大使館の香川公使を初めとしにもご参加いただいた多くの来賓の皆様にも、立派な芸に大変ご満足いただけたかと思えます。

さらに、懇親会の途中、このたび結婚する平野調整員へのサプライズ企画として、本人には秘密の中

でいきなりのスプレー&紙吹雪攻撃のもとで、平野調整員結婚の発表がありました。

ボランティアの皆さんや来賓の皆様もスプレーだらけになってしまいましたが、皆から祝福された平野調整員は、本当にうれしそうでした。どうぞお幸せに！笑いあり涙ありの楽しい懇親会となりました。



みんなの祝福を受けうれしそうな平野調整員

総会中、我々調整員はバタバタはどうですが、いざ終わってみると、ボランティアの方が少しずつ任期に戻っていき、だんだん静かになっていくのが寂しいものです。ボランティアの皆さん、もっと北京に遊びに来てください！最後に、役員で働いていただいた方々、ありがとうございました。お疲れさまでした！（ボランティア調整員/渡邊憲夫）

(2) 水利人材プロジェクトが終了！

はじめに

洪水災害、渇水被害の軽減、水環境の改善の三大水問題を解決するために、2000年からよい人材を一人でも多く育成する目的で始められた水利人材養成プロジェクトが7年の活動を経て6月で終了しました。

プロジェクトの背景

中国の水資源総量は2.8兆m³で世界第6位ですが、人口一人あたりの水資源量は2,200m³で世界平均の四分の一程度にすぎません。都市部においては全体の三分の二にあたる400都市で水が不足しており、農村部でも3億人以上が安全性に不安のある水を利用するなど水資源にかかる問題は深刻化しており、適切な水資源管理が求められています。しかし実際には高度な技

術力を有する人材の不足、地域間の人材の分布の不均衡、更には技術者の高齢化等の課題を抱えており、中国の水資源管理をはじめとする水利分野での人材育成が緊急な課題となっています。

かかる背景のもと、水利人材養成プロジェクトが開始しました。



池田チーフアドバイザー(前列中央)

概要

本プロジェクトの目標は「水利部人材資源開発センターにおいて、水利部門の研修管理、水資源管理、工事建設管理、砂防の各分野の指導研修コースが確立する。そして、中級・初級技術者を指導する指導者(2000名)を養成する」であり、目標を達成するために水資源管理、工事建設管理、砂防、研修管理¹⁾の各分野で指導者用の研修コースを設置し、全国の中級・初級技術者を指導する講師の育成を行っています。中国全土を対象とした事業であり、水利部本体のみならず、水利関係部局に所属する多数の技術者・管理者が研修コースに参加しました。

本プロジェクトは水利部のプロジェクトの中では最大規模で、カバーする分野が広い人材養成プロジェクトです。本プロジェクトを通じ水利部は日本の水資源管理等

¹⁾水資源管理分野は水資源管理計画、分配手法を理解させるとともに、節水、再利用など日本の先進的な技術、制度を理解させる研修。砂防分野は砂防分野の調査・計画・施工技術、土砂災害の観測、予防警報の技術を理解させる研修。研修管理分野は職員研修に関する政策、理論、技術や研修を実施するために組織構成、運営管理手法を理解させる研修。建設管理分野はコスト、工期、品質を管理しながら、工事をすすめる手法を理解させるとともに、既存の施設を有効に利用する技術を理解させる研修。(水利人材養成プロジェクトホームページより)

http://project.jica.go.jp/china/033140E0/index_1.html

多方面における先進的事例を学び、参考としつつ、中国水利分野の幹部の知識、技術レベルの向上が目指されました。

成果

本プロジェクトでは研修の質を向上させるため、研修者に対する追跡アンケート調査を実施しています。アンケートによると研修参加者、研修参加者の所属先の上司、研修参加者の同僚・部下の90%以上が、水利人材養成プロジェクト主催の研修は中国水利事業の発展に積極的な役割を果たしていると回答していることから、本プロジェクトは中国水利部門の広範囲な幹部・職員に高い評価を受けていることがわかります。



総括セミナー

終了にあたり、6月25日(月)～26日(火)に総括セミナーを実施しました。総括セミナーには日本から国土交通省吉田大臣政務官、日比河川局次長などの幹部が、中国からは周英副部長及び関係部門の司长などの幹部が列席、中国各地から水利研修教育機関などの関係者が126人出席して行われました。

当日は劉人事労働教育司长や基調報告、陳主任、池田リーダーからの成果報告、訪日研修や国内研修の優秀修了者による発表や研修生による優秀論文の発表も行われ、これまでの成果を確認するとともに、中国側有識者の講演も行って将来にむけた水利人材養成の方向性について活発に議論がなされました。

(企画調査員平野貴寛)

(3)第4回「中国における参加型協力」セミナー開催

去る7月19日(木)午後、参加型開発をテーマとしたセミナーがJICA中国事務所で開催されました。JICA専門家やスタッフのほか、日本大使館、国際機関、ジャー

ナリスト、研究者、と中国で開発に携わる多彩な 20 名が集まり、参加型アプローチについて理解を深めました。

講師は、斎藤淳子北京大学経済学院研究員とアクション・エイド・チャイナの張蘭英所長、北京では業績、現場経験とも若手ではこれ以上ないという陣容です。

「参加型」協力は、住民主役の地域開発に有効なアプローチとして、他国の援助機関やNGOも広く取り入れています。特に地方行政と住民との関係に問題を抱える中国では、この「参加型」で住民の自覚と能力を高め、地方行政との対話を通してより効果的な公共サービスを実現するという面(ガバナンス改善)でも実績を上げています。

日本の開発援助は、「人間の安全保障」の視点で協力活動を行うことを謳っていますが、住民達に働きかけ、進行中または将来発生し得る「危機」や「不安」に対応できる能力を高めることもできるこの参加型アプローチは、JICA プロジェクトのみならず、援助の質の更なる向上のための選択肢として、その応用や普及が期待されます。

当日、シミュレーション実習を取り入れたセミナー後半では、議論や笑い声で会場がにぎやかに盛り上がりました。内容てんこ盛りの第4回でしたが、「参加型プロジェクトによって農民たちの意欲向上、積極的にプロジェクトを進めていく行動を彼ら自身が取っていくところがとても意義のある事だと思った。」「基層のニーズ把握及びこのようなニーズへ対応するには、従来手法より『参加型』のほうが草の根的でかつ効率が良いと感じた。」などの反響がありました。積極的に参加して下さった皆さんに心から感謝申し上げます。(主催者:技術協力アドバイザー 専門家 難波 緑)



2. 主な調査団(派遣中・派遣予定)(7月)

広州市院内感染中間評価調査団

小野団長(7.12~7.21)

3. 7月の主要行事

ODA民間モニター視察団訪問 (7/21~7/28)

エッセイコンテスト 2006 上位入賞者研修旅行
(7/25~7/31)

科技部CDM現地国内研修(7/16~7/21)

4. 専門家・ボランティアコーナー

今月は、安徽省合肥市の安徽中澳科技職業学院で活動中の高島啓輔隊員(日本語教師)からの投稿をご紹介します。

学校でのおすすめスポット。それはこの「小さい食堂」です。「小・中・大」とある食堂の中で、一番の人気を誇り、早目に行かないとおかずがなくなってしまうほど。そのため、午前中最後の授業終盤には、学生達が落ち着かなくなります。



まずは、「愛想がよくない」と学生に厳しい評価をもらっているおじいちゃんにご飯をよそってもらいます。でも、自分の評価は◎。だって、マイタッパーを持っていっているせいか、椀を使う学生よりたくさんご飯をよそってくれる!!! 頑固な感じの風貌も素敵です。そして、おかずコーナーへ。ここでは、列があるのかないのか、いつも不思議に思います。自己主張の練習には最適かも。自己主張しないといつまで経っても、昼食にありつけません。



この食堂は家族経営のようで、よく行っているので顔を覚えてもらっています。おかずの名前を中国語で言うと、なんだかうれしそうな顔になります。これからも通います！

* 専門家、ボランティアの方々からの情報提供、大歓迎です。また、本紙に対するご意見、ご提案などもいただければ幸いです。いずれも中国事務所周南 (zhounan.cn@jica.go.jp) までお願いいたします。